

コンドルファ始動器 操作マニュアル

1. 運転準備

- 1) 主回路電源(3φ 200/220V 50/60HZ OR 3φ 400/440V 50/60HZ)を盤内左側板の端子台R, S, T端子に、モータ負荷を盤内下部の端子台U, V, W端子に、操作回路電源(1φ 200/220V 50/60HZ)を盤内右側板の端子台R O, S O端子に接続します。
- 2) 盤内下部左側に接地端子Eがありますから、必ず第3種接地してください。
- 3) モータ容量に合わせてサーマルリレー(TH1, TH2, TH3)の設定を最適な値に調整します。
- 4) 主回路電源ブレーカ(NFB1), 操作回路電源ブレーカ(NFB2)を投入します。電源表示灯(WL)が点灯します。
- 5) 扇を開じます。停止表示灯(GL)が点灯します。

2. 手元運転

- 1) 手元一遠方切替スイッチ(CS2)を手元側にセットします。
- 2) モータ容量選択スイッチ(CS1)をモータ負荷に合わせてセットします。

1 ノッチにすると、容量表示灯(THL1)	[220V 150KW 440V 300KW]	が点灯します。
2 ノッチにすると、容量表示灯(THL2)	[220V 110KW 440V 220KW]	が点灯します。
3 ノッチにすると、容量表示灯(THL3)	[220V 75KW 440V 150KW]	が点灯します。
- 3) 運転押釦(PB1)を押しますと、停止表示灯(GL)が消灯し、始動中表示灯(YL)が点灯し、モータが減電圧始動します。
- 4) 運転切替タイマー(TR1)の設定時間後、減電圧始動が終わり、モータは正常運転になります。始動中表示灯(YL)が消灯し、運転表示灯(RL)が点灯します。
- 5) モータの始動電流によるサーマルリレーのトリップを防ぐために、サーマルリレーは始動中には検出せずに、運転に入って検出からします。

3. 遠方運転

- 1) 盤内右側板の端子台の11, 12端子のジャンパー線をはずして、外部遠方操作盤の停止押釦回路を11, 12間に、運転押釦回路を14, 23間に接続してください。
- 2) 手元一遠方切替スイッチ(CS2)を遠方側にセットします。
- 3) 以下の操作は、手元運転と同様にしてください。

4. 停止

- 1) 停止押釦(PB2)を押しますと、運転表示灯(RL)が消灯し、停止表示灯(GL)が点灯します。モータがフリーラン状態になります。
- 2) 主回路電源ブレーカ(NFB1), 操作回路電源ブレーカ(NFB2)を切ります。

5. インターロック回路

- 1) インターロック回路が必要な場合には、盤内右側板の端子台の17, 18, 19端子のジャンパー線をはずして、始動インターロック回路を 17, 18間に、停止インターロック回路を 18, 19間に接続してください。

6. 調整および設定

- 1) 弊社出荷時の初期設定は下記の通りです。

始動用単巻変圧器タップ ——— 65%
サーマルリレー(TH1) ——— 3.6(電流換算 540A)
サーマルリレー(TH2) ——— 2.5(電流換算 375A)
サーマルリレー(TH3) ——— 1.7(電流換算 255A)
始動渋滞タイマー(TR0) ——— 54秒
運転切替タイマー(TR1) ——— 30秒 (最小 5秒～最大50秒)
運転切替タイマー(TR2) ——— 1.2 秒

* 始動渋滞タイマー(TR0), 運転切替タイマー (TR2)は設定済ですので、絶対に変更しないでください。

- 2) 負荷が軽く始動電流をもっと少なくしたい場合には、始動用単巻変圧器のタップを3相共 50%にして、運転切替タイマー (TR1)の時間を最適な値に調整してください。
(最大50秒迄)
- 3) 負荷が重くモータが始動しにくい場合には、始動用単巻変圧器のタップを3相共 80%にして、運転切替タイマー (TR1)の時間を最適な値に調整してください。
(最大45秒迄)
- 4) 始動用単巻変圧器は短時間定格ですので、始動回数が多くなると変圧器が加熱し、焼損する場合があります。連続3回以上始動する場合には、変圧器を休止させて熱方散させてください。休止時間は 1.5時間以上とする様にしてください。

7. 故障

- 1) モータが過負荷状態になると、コンドルファ始動器は自動的に停止し、モータはフリーラン状態になります。故障表示灯(OL), 停止表示灯(GL)が点灯します。また容量表示灯(THL1, THL2, THL3)が消灯します。
- 2) 故障内容を調査の上、原因を除去してください。
- 3) サーマルリレー (TH1, TH2, TH3)のリセット釦を押して、再運転してください。